

令和 2 年 4 月 28 日

三原市長 天 満 祥 典 様

三原商工会議所

会頭 森 光 孝 雅

尾道糸崎港の港湾整備についての要望

平素から、三原商工会議所の事業運営につきまして、多大なるご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、三原市はこれまで工業都市として発展をしてきており、空・海・国道・J R 等の交通の要所であり、海岸部には重要港湾「尾道糸崎港」を有しています。

この港湾のうち、市内にある「糸崎地区」、「貝野地区」の整備は、今後の三原市はもちろん、広島県東部地域の発展のために不可欠なものであると考えております。

また、三原市内港についても、中心市街地活性化、観光・防災機能の拠点として機能強化を図っていかなくてはなりません。

地域を担う企業の競争力を高め、物流拠点としての港づくり、また、市内の観光資源への交流人口増加につなげる観光交流拠点としての港づくりを引き続き推進していく必要があります。

つきましては、次の項目について一層のご配慮を賜りますよう要望いたします。

(1) 尾道糸崎港貝野地区の整備について

三原市貝野地区は、住工混在を解消し、物流の円滑化、交通ネットワーク化を推進するため、平成 9 年度から浚渫土砂による埋立工事が進んでいます。令和 2 年 2 月現在の工事の進捗率は、約 9 割となっているとお聞きしていますが、早期完成を

目ざし、地域経済の発展・活性化のために活用していくようお願いいたします。

(2) 尾道糸崎港松浜地区（第2工区）埋立事業の早期完成

尾道糸崎港では、大規模地震発生時等の異常時において、臨海部の防災拠点となるオープンスペースが確保できない状況で、また、三原地区には、約700隻（H22年調査）のプレジャーボートが存在し、そのほとんどが放置艇となっており、景観の悪化や津波・高潮時の流出による被害を防ぐため、ハード・ソフト一体となった取組みが必要です。

三原市で策定されている「松浜地区みなとの賑わいづくりプラン」の推進にむけ、広島県が、平成31年4月に交流厚生用地及び緑地の土地利用計画について港湾計画を変更し、令和2年度からの事業着手をご予定いただいておりますが、是非この計画を早期に推進いただくようお願いいたします。

(3) 尾道糸崎港（三原市三原地区）の安全・安心対策

尾道糸崎港については、背後地に住居や事業所が密集しており、台風による浸水被害を受けていることや、ゼロメートル地帯においては、地震による海岸保全施設等の被害が発生すると、経済活動や市民活動に与える影響が甚大であることが予想されるため、堤防・護岸等の高潮対策や堤防の耐震対策をしていただくようお願いいたします。

(4) 尾道糸崎港「糸崎岸壁」の整備

①大水深化及び耐震強化岸壁の整備・クルーズ振興施策

大規模地震の発生が懸念される中、地震発生後の避難者や緊急物資の輸送拠点を確保するため、耐震強化岸壁が必要です。平成30年7月豪雨災害発生時には、防

衛省が「民間船舶はくおう」を糸崎港に派遣し、被災者の方は支援を受けることができました。

災害発生時に対応するためにも、糸崎岸壁の耐震化の早期着手をお願いいたします。

また、大型貨物船による物流の効率化や大型クルーズ船寄港は、広島空港からのアクセスやJR在来線・新幹線へのアクセスなどの利便性を活かして、観光客を迎え入れ、地域活性化につなげる事も可能であると考えられます。

このため、大型船・大型クルーズ船の寄港が可能となるよう大水深化を図って頂きますようお願いいたします。

あわせて、糸崎岸壁は、主に貨物用岸壁として整備されていることから、客船寄港の際の係留施設の整備不十分であるため改善について取り組んでいただきますようお願いいたします。

②耐荷重の拡大

現在の糸崎岸壁の耐荷重は、 $2\text{t}/\text{m}^2$ となっていると聞いておりますが、港湾利用者より荷物が搬出しやすいよう、耐荷重 $7\text{t}/\text{m}^2$ 程度に高めて欲しい要望を聞いておりますので、改善についてご検討いただきますようお願いいたします。

(5) 尾道糸崎港「糸崎岸壁」と貝野地区の連携強化のための架橋の設置

浚渫土砂による埋立工事が進む貝野地区と機能強化を図った糸崎港の機能を最大限に活用し、地域の活性化に結び付けるため、計画にも掲げられている、糸崎一貝野間の臨港港湾道路（港湾架橋）の実現をしていただきますようお願いいたします。

(6) 港湾ビルの機能強化（リニューアル）及び中心市街地活性化のための取り組み

三原市では「三原市中心市街地活性化基本計画」、「市中心部のグランドデザイン」を策定し、賑わい・交流・回遊の創出等を図るハード・ソフト事業を官民共同で行っています。

そのような中、令和2年度には、東館跡地の整備完了や、JR西日本によるDestinyネーションキャンペーンにあわせ、観光旅客船「シースピカ」や、瀬戸内観光列車「etSET0ra（エトセトラ）」の運行計画も予定されています。

JR三原駅と三原港が隣接しているという当市の地の利を活かし、港湾ビル及び内港設備の機能強化により、駅北地域に点在する城跡・寺社仏閣や、瀬戸内の海岸線沿いの地域資源の回遊性を高める観光拠点として入込客の拡大を図るとともに、防災機能を持つ拠点として、有事の際には三原市の危機管理の一助になるよう、港湾ビルの区分所有者の権利放棄を促し、「公共工事」として整備いただきますようお願いいたします。